

建築士養成インターンシップ

学内インターンシップ A

2024年度開講・選択・4単位

Internship in Campus A

担当教員 未定

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的 大学卒業後直ちに一級建築士資格取得試験の受験資格は発生するが、最終的な資格取得のためには、一級建築士事務所等において2年間の実務経験を有することが求められる。この学内インターンシップを単位修得すると、社会での実務経験と同等と認定される。

大学院に在籍していながら、一級建築士資格取得までの期間を短縮することが大きな目的である。

具体的な実務の目標は、実施設計図書を理解し主として平面詳細図と断面詳細図を描き方を身につけることである。

到達目標 実施設計図書がどのように構成されているかを理解したうえで、実施設計図面のうち部分詳細図を描くことができる。

大学院に在籍していながら、建築設計事務所での実務設計に準ずる内容を体験することができる。

授業計画の概要

実際に計画が進められている実例をとおして、実施設計図の描き方を学ぶ。

120時間を基準履修時間とするが、インターンシップの性格上、時間数が多くなる場合もある。実施設計図を描くことができるようになることが、学内インターンシップAの目標である。

学内で一級建築士の資格を持つ専任教員が担当することで、修士設計とも連動した指導プログラムを組み、より綿密な教育を行うことを目的としている。

各特別研究指導教員が提示する個別プロジェクトを履修することによって、当該科目に認定される場合もある。

学内インターンシップ B

前期・選択・4単位

Internship in Campus B

担当教員 三上晴久

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的 実施設計図書を理解し、主として各部位の部分詳細図の描き方を身につける。

到達目標 実施設計図書がどのように構成されているかを理解したうえで、実施設計図面のうち部分詳細図を描くことができる。

大学院に在籍していながら、建築設計事務所での実務設計に準ずる内容を体験することができる。

授業計画の概要

実施設計図の描き方を学ぶ。120時間を基準履修時間とするが、インターンシップの性格上、時間数が多くなる場合もある。実施設計図のうち部分詳細図を描くことができるようになることが、学内インターンシップBの目標である。

学外インターンシップと異なり、学内で一級建築士の資格を持つ専任教員が担当することで、修士設計とも連動した指導プログラムを組み、より綿密な教育を行うことを目的としている。

学外インターンシップ I

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus I

担当教員 三上晴久

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的 特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標 実施設計図を描くことができる。実務設計の進め方を理解することができる。

授業計画の概要

特定の一級建築士事務所等において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。

大学卒業後直ちに一級建築士資格取得試験の受験資格は発生するが、最終的な資格取得のためには、一級建築士事務所等において2年間の実務経験を有することが求められるが、学外インターンシップを単位修得すると実務経験と同等と認定されるので、一級建築士資格取得までの期間を短縮することができる。

120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

学外インターンシップ II

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus II

担当教員 三上晴久

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

学外インターンシップ I を履修済みであること。

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的 特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標 実施設計図を描くことができる。実務設計の進め方を理解することができる。

授業計画の概要

特定の一級建築士事務所等において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。

大学卒業後直ちに一級建築士資格取得試験の受験資格は発生するが、最終的な資格取得のためには、一級建築士事務所等において2年間の実務経験を有することが求められるが、学外インターンシップを単位修得すると実務経験と同等と認定されるので、一級建築士資格取得までの期間を短縮することができる。

学外インターンシップ I 修得後、120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

学外インターンシップⅢ

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus Ⅲ

担当教員 三上晴久

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

学外インターンシップⅡを履修済みであること。

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的 特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標 実施設計図を描くことができる。実務設計の進め方を理解することができる。

授業計画の概要

特定の一級建築士事務所等において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。

大学卒業後直ち一級建築士資格取得試験の受験資格は発生するが、最終的な資格取得のためには、一級建築士事務所等において2年間の実務経験を有することが求められるが、学外インターンシップを単位修得すると実務経験と同等と認定されるので、一級建築士資格取得までの期間を短縮することができる。

学外インターンシップⅡ修得後、120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。

学外インターンシップⅣ

前期／後期・選択・4単位

Internship out of Campus Ⅳ

担当教員 三上晴久

履修制限等

二級建築士資格取得試験の受験資格を有していることを履修条件とする。

学外インターンシップⅠ～Ⅲを履修済みであること。

授業の目的と到達目標（学修成果）

授業の目的 特定の建築設計事務所においてスタッフに準ずる立場になり、実務設計を理解することができるようになる。

到達目標 実施設計図を描くことができる。実務設計の進め方を理解することができる。

授業計画の概要

特定の二級建築士事務所等において実務設計業務に機わることによって、実務設計に必要とされる能力を高めていくことを目的とするものである。

大学卒業後直ち二級建築士資格取得試験の受験資格は発生するが、最終的な資格取得のためには、二級建築士事務所等において2年間の実務経験を有することが求められるが、学外インターンシップを単位修得すると実務経験と同等と認定されるので、二級建築士資格取得までの期間を短縮することができる。

学外インターンシップⅢ修得後、120時間以上の実習期間後、実習先からの実績表を参照して担当教員が単位を認定する。